

# 筑波社会科学研究

## 第16号

---

### 【研究論文】

- 小学校の異文化理解教育におけるクロスカルチャー・シミュレーション“Rafá Rafá”の意義  
 —茨城県水海道市立水海道小学校における実践を通して—……………井門 正美 (1)
- 人間としての在り方生き方の教育  
 —カウンセリング・マインドを生かして—……………田中 利行 (15)
- 日本史教育における「山民社会」の視点の導入の意義……………高橋 直英 (27)
- 進路選択を意識させた地理教育の展開  
 —『立地論』の授業を通して—……………田村 和浩 (37)
- 千葉県長生郡・夷隅郡における定期市の存立基盤……………久保 京子 (45)

---

### 【研究会報告】

- 第15回研究大会報告…………… (57)
- 6月例会…………… (60)
- 11月例会…………… (65)

---

### 【図書紹介】

- 谷川 彰英著『柳田國男 教育論の発生と継承  
 —近代の学校教育批判と「世間」教育—』……………二谷 貞夫 (67)
- 井田 仁康著『ラブリー・ニュージーランド』……………山田 義尚 (69)

---

### 【学会彙報】

- 1996年度学会活動報告…………… (71)
- 教育研究科1995年度修了生 修士論文一覧…………… (73)

筑波大学社会科教育学会

1997

## 筑波大学社会科教育学会会則

- 第 1 条 (名 称) 本会は筑波大学社会科教育学会と称する。
- 第 2 条 (目 的) 本会は社会科教育に関する研究を行い、あわせて会員相互の連絡をはかることを目的とする。
- 第 3 条 (活 動) 本会は前条の目的を達成するために、次に活動を行う。
1. 研究会の開催
  2. 機関誌の発行
  3. 資料の収集・交換
  4. その他必要と認められるもの
- 第 4 条 (会 員) 本会の会員は、筑波大学の出身者および本会の趣旨に賛同する者で、所定の会費を納入した者とする。
2. 本会に賛助会員をおくことができる。賛助会員は、会の趣旨に賛同し、賛助会費を収める者とする。
- 第 5 条 (本 部) 本会の本部は、筑波大学教育学系社会科教育学研究室におく。
- 第 6 条 (役 員) 本会は次の役員をおく。
- 会 長 1 名 副会長 1 名 評議員 若干名  
幹 事 若干名 会計監査 2 名
2. 評議員および会計監査は総会において選出する。
  3. 会長および副会長は評議員会で選出する。
  4. 幹事は総会の承認を得て、会長が委嘱する。
  5. 役員の任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。
- 第 7 条 (役員の仕事) 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
  3. 評議員は評議員会を構成し、重要な会務を運営する。
  4. 幹事は幹事会を構成し、会長をたすけて会務を運営する。
  5. 会計監査は、本会の会計を監査する。
- 第 8 条 (顧 問) 本会には顧問をおくことができる。顧問は総会の承認を得て会長が委嘱する。
- 第 9 条 (会 議) 本会の会議は、総会、評議員会および幹事会とする。
2. 総会は毎年1回会長が招集し、会員の過半数の出席によって成立する。ただし、会員は委任状をもって議決権を他の会員に委任することができる。
  3. 必要ある場合、会長は臨時総会を招集することができる。
  4. 総会の議決決定は、出席会員の過半数をもって行う。
  5. 評議員会は、会長、副会長、評議員をもって構成し、会長の招集によって重要な会務を審議する。
  6. 幹事会は会長が招集する。
- 第 10 条 (会 計) 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれに充てる。
2. 本会の会費は総会で定める。
  3. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日までとする。
- 第 11 条 (会則の改正) 会則の改正は、総会の議を経なければならない。
- 付 則 この会則は昭和57年2月11日から施行する。

1996（平成8）年度役員

- 会 長 上 笹 恒（筑波大学・哲学思想学系）
- 副会長 谷川彰英（筑波大学・教育学系）
- 評議員 朝倉隆太郎（豊田短期大学），飯島睦子（東京・今川中），石井透雄（茨城・鉾田農業高），石川裕之（長野・飯田高），岩崎宏之（筑波大学・歴史人類学系），大森 正（東洋大学），梶 哲夫（元早稲田大学），金子 巧（広島・舟入高），唐木清志（静岡大学），川崎誠司（東京学芸大学），木村勝彦（上田女子短期大学），木村健一郎（創価大学），後藤忠司（兵庫・須磨反ヶ丘高），斎藤宏夫（栃木・上三川高），篠原昭雄（つくば国際大学）
- 高山次嘉（早稲田大学），竹下裕隆（愛知・豊田高），田村和浩（茨城・土浦第一高），溜池善裕（秋田大学），二谷貞夫（上越教育大学），平岡可奈之（神奈川・桐蔭学園），藤沢 健（岩手・岩手高），古山良平（東京学芸大学附属高），別府淳夫（つくば国際大学），松岡尚敏（宮城教育大学），松本 康（香川大学），三浦軍三（東京学芸大学），宮崎正勝（北海道教育大学），森茂岳雄（東京学芸大学），横山十四男（元東京家政学院大学）
- 会計監査 高野尚好（筑波大学・学校教育部），三野輪敦（茨城・茗溪学園中・高）
- 幹 事 井田仁康（筑波大学・教育学系），伊藤純郎（筑波大学・歴史人類学系），井門正美（筑波大学大学院），内田邦彦（東京・穎明館中・高），江口勇治（筑波大学・教育学系），小玉慎也（秋田・湯沢高），小森正明（宮内庁），竹中大剛（厚生省），田中通彦（筑波大学・歴史人類学系），谷川彰英（筑波大学・教育学系），田村真広（北海道教育大学），塚原直人（東京・秋川高），永野広務（神奈川・西浜高），菱山謙二（筑波大学・社会科学系）
- 藤井千春（茨城大学），保坂秀夫（埼玉純真女子短期大学），真柴晶彦（東京・南高），松本敏（宇都宮大学），谷田部玲生（お茶の水女子大学附属高）
- 山本栄一（神奈川・厚木商業高），李 明熙（筑波大学大学院）

『筑波社会科研究』編集委員

井田仁康，井門正美，江口勇治，桐谷正信，熊田禎介，佐藤 公，谷川彰英，  
外池 智，李 明熙

### 〈編集規定〉

- (1) 本誌は筑波大学社会科教育学会の機関誌であり、年一回発行する。
- (2) 本誌は本学会会員の研究論文、研究ノート、書評、研究会報告、学会彙報、その他会員の研究活動に関する記事を掲載する。
- (3) 本誌に論文その他を掲載しようとする会員は、所定の執筆要領に従い「編集委員会」宛に送付する。
- (4) 原稿の掲載は編集委員会の審議を経て決定する。
- (5) 掲載予定の原稿について、編集委員会は執筆者との協議を通じ、内容に変更を求めることがある。
- (6) 本誌に掲載された論文その他は原則として返還しない。
- (7) 執筆者による校正は第一校までとし、再校以降は原則として編集委員会の責任において行う。

### 〈執筆要領〉

- (1) 論文原稿は未発表のものに限る。(ただし、口頭発表、プリントの場合はこの限りではない。)
- (2) 編集委員会が特に枚数を指定する以外の原稿は、図・表などを含めて、原則として研究論文が400字詰原稿用紙40枚以内、研究ノートが30枚以内、実践報告が20枚以内、書評が5枚以内とする。ワープロ原稿の場合は、研究論文が10枚以内、研究ノートが7枚以内、実践報告が5枚、書評が2枚以内とする。
- (3) 原稿は、400字詰横書きとする。ワープロ原稿の場合、43字×31行横書きとする。ワープロ原稿は、フロッピーディスクを付するものとする。
- (4) 原稿には、必ず英文タイトルを添付する。
- (5) 原稿には、氏名(フリガナ)、所属(職名その他を含む)、連絡先を付記し、筑波大学社会科教育学会「筑波社会科研究」編集委員会宛に送付するものとする。
- (6) 図版等で特定の費用を要する場合、執筆者に負担させることがある。
- (7) 原稿〆切は毎年9月30日、発行は翌年2月11日とする。

---

## 筑波社会科研究 第16号

1997年2月8日 印刷・発行

編 集 「筑波社会科研究」編集委員会

代表者 谷川彰英

発 行 筑波大学社会科教育学会

会 長 上 笹 恒

事務局 茨城県つくば天王台1-1-1(〒305)

筑波大学教育学系 社会科教育学研究室

TEL 0298-53-6729~31

振替 宇都宮 5-7442

印 刷 (有) 甲 文 堂

東京都文京区大塚1-4-7(〒112)

TEL 03-3947-0844/FAX 03-3947-0858

---

TSUKUBA ANNALS  
FOR  
SOCIAL STUDIES EDUCATION  
No.16 1997

CONTENTS

**Articles**

- The Significance of A Cross Culture Simulation “Rafá Rafá”  
in Elementaly Education :  
    Analyzing A Case of Mitsukaido Elementaly School  
    ..... Masami IDO...( 1)
- How to Cultivate Students’ Human Nature: Based on the Counseling Mind  
    ..... Toshiyuki TANAKA...(15)
- Issue on Introducing the Aspect of the Inhabitant Based on Mountain  
Area into the Japanese History Education  
    ..... Naohide TAKAHASHI...(27)
- A Development of Geographic Teaching Aiming to Choosing Course :  
    “The theory of Location” and Geography Education  
    ..... Kazuhiro TAMURA...(37)
- The Existence Basis of Teiki-ichi in Chosei-gun and Isumi-gun  
    ..... Kyoko KUBO...(45)

**Research Conferenses** ..... (57)

**Book Review** ..... (67)

**Academic News**

- Academic Activities of the Association for the Social Studies Education  
in 1996 ..... (71)
- Titles of Master Theses Submitted by Graduate Students of the Social  
Studies Course, Master’s Program of Education in 1995 ..... (72)

THE ASSOCIATION FOR SOCIAL STUDIES EDUCATION  
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA